1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2294200536		
法人名	株式会社　宇宙SORA		
事業所名	グループホーム　ファミリア西脇	ユニット名	1階
所在地	静岡県静岡市駿河区西脇521－1		
自己評価作成日	平成23年1月13日	評価結果市町村受理日	平成23年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2294200536&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社　福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4－1
訪問調査日	平成23年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員は一人ひとりのできる事の把握に努め、利用者の自立した生活を目指しています。安全、安心に生活するために柔軟に対応し、尊厳に配慮した支援を行いつつ、ひとつ屋根の下で生活する家族として温もりのある雰囲気を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

静岡市郊外の市街地に明るく広々として清潔な施設環境が整えられ、利用者・家族・職員が家族として明るく楽しい暮らしを目指したホーム運営が行われている。自治会に参加し地域行事や回覧板などを通しての相互交流や地域自主防災組織活動など近隣との友好関係を築いている。ホーム運営の基本となる介護計画～モニタリングの仕組みが整い、終末期ケアも基本指針やマニュアル・同意書等も整備され法人全体で取り組んでいる。ホーム長と職員が一体となって取り組んでいるケアが、利用者の明るく穏やかな表情に表れているホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を玄関に掲示し、毎朝復唱し意識している。	法人理念「入居者・家族・職員＝家族の和」を下に利用者と職員の明るく楽しい生活の実現に向けホーム長・職員が一体となって取り組んでいる。	法人理念実現に向け、自己評価等を活用しホーム独自の目標やその実践への課題等を明確にして全職員で取り組む活動が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、お祭り運動会などに参加している。自主防災組織にも加入し町内の防災訓練にも参加している。散歩していると声を掛けて下さる方が多い。毎月、ファミリア通信という新聞を作成し西脇町内の回覧板にいれて頂いている。	自治会活動、地域行事やお祭り・運動会等の参加、回覧板での相互交流等地域との交流は活発に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の会合に参加しグループホームの説明を行ったり、介護の相談に来られた方と話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で防災訓練を行うことにより、職員家族地域自主防災組織の意識の向上を図る。取り組み状況を報告して意見を聞き職員にも伝えている。	3～4ケ月毎に地域関係者、民生委員、地域包括支援センター職員、家族や職員の参加の下、ホーム状況報告や防災訓練への地域との連携協力依頼等の話し合いの場として実施されている。	運営推進会議はホーム運営上の状況や課題等を家族、地域関係者と話し合い、意見交換の場としての活用が期待されるので定期的な開催と有効活用が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加され、必要な時に相談しアドバイスを頂いている。	運営推進会議での話し合いや日頃の報告・書類等の持参などを通して関係作りを行っている。窓の解放等も相談・アドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を宣言しており、現在拘束は行っていない。今後も拘束をしないケアを目指していく。	重要事項説明書への明記や身体拘束「0」宣言、マニュアルや研修、玄関の開錠等ホーム全体で身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束の具体的な行為や、精神的な拘束や言葉による拘束を含めて日々の対応や言葉掛け等、職員間の共通認識への取り組みが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員全員で意識し発生しないように今後も意識を深めていきたい。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所全体としては特に行っていないが、利用者ご家族からの相談に応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には管理者がご家族に説明を行い、日頃より交流を持っているため随時対応している。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に意見を出して頂けるように信頼関係を築く努力をしている。意見があった場合は職員にも伝え改善を図っている。	運営推進会議や来訪時の面談、電話連絡、介護計画の話し合い、毎月の身体状況のお知らせ等を通して意見や要望等を聞く機会を設けホーム運営に反映している。	運営推進会議と家族会の統一開催や、その報告書や身体状況のお知らせ等の送付時を活用した双方向の意見交換など機会拡大の取り組みが期待される。
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議にて意見を聞いている。常に職員の言動には注意を払い必要時には個別の面談を行っている。	毎月の会議、日々のミーティング、個別面談などを通して職員との意見交換、話し合いの場を設けてホーム運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇を利用できるように配慮し、やりがいを持って働く事が出来るように努めている。体調不良時家庭の事情がある時も無理をしないようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部の研修、講習へ参加するようにしている。日頃から一人ひとりに合った教育をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	静岡市内の他のグループホーム事業者と意見交換会を開催し、色々な情報を運営に役立てている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずはグループホームに慣れて落ち着いて生活できるように、本人家族と話し合いを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	希望を聞きつつもグループホームでできる事や様々な出来事(リスク)を説明し気軽に話し合えるような関係を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在は他のサービスの利用はないが場合によっては介護支援専門員と相談し対応していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行い、できることはしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の家族に対する思いを伝え、家族の協力があって支える事ができていると伝えている。電話やお便りだけになっているご家族も面会に来やすいように話をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	車での外出時は馴染みの場所に寄ったり、面会者の訪問外出も円滑に行えるようにしている。話の中で出てきた名前は家族に確認している。	利用者の馴染みの場所近くを訪問したり、友人・知人の来訪支援や、家族の協力を得ての墓参りや関係者の協力で以前の習慣維持の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが自然とよい関係になれるように環境づくりをして、職員が間に入り関係性を保っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後1，2ヵ月後に電話をして話をしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で言動表情をみて、思いを把握できるように努力している。家族からも生活の意向など話を聞いている。	職員はできるだけ声掛けをして会話や表情を捉え傾聴し、意思表示の行動を注意深く観察することで意向の変化をくみ取るよう努めている。一人ひとりの気持ちを満たし、その人らしく暮らし続ける支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報として聞き取りを行っている。入居後も本人との会話の中で出てきた名前や場所を家族に確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送りにて情報を共有して把握している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人に生活の希望を聞き、家族にも面会時や電話連絡時に聞き、毎月の会議で検討をして変化に応じて必要のある場合は見直しを行っている。	居室担当者が利用者の生活状態をまとめ一人ひとりの現状を把握しアセスメントを行い、全体ミーティングで利用者の要望が反映するよう充分検討し作成している。変更は柔軟に対応している。	日々の記録の積み重ねをして利用者の状況把握に努め実践しているので、もう一歩進めて3ヶ月毎に見直し更新するよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録への記入、連絡ノートの活用、毎日の申し送り、日々の勤務中に情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に外出の希望がある場合もできるだけ対応している。家族の状況により通院の付き添いも行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩買物でホームの外に出る機会をつくっている。地域の民生委員や地域住民の訪問もある。町内で催し物がある時は誘って頂けるため参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続して主治医としている。その他、提携医があり、希望される方は月二回の往診を受けている。	利用者はそれぞれなじみの主治医を持ち、家族の協力を得ながら支援している。協力医療機関の済生会総合病院と連携体制があり、いつでも相談や指導を得られ内科医が月2回訪問診療に来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回非常勤の看護師が勤務して密に連携をとり健康管理を行っている。体調不良時には電話連絡し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院前には情報を提供し退院前には状態の把握をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の契約時に重度化した場合の対応の指針の説明を行い、ご家族主治医と相談しながら最善の選択ができるように対応している。	早い段階から、重度化した場合や終末期対応方針を定め家族に説明し、希望する終末期のあり方を選択した同意書を提出して貰っている。職員は家族･主治医と相談しながら方針を共有していく支援に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを使用して応急手当や急変時の対応を教育し看護師からの指導も行っている。提携医は24時間体制のコール対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回防災訓練を行い、運営推進会議で実際に訓練を行うことにより職員家族地域自主防災組織の防災意識、協力体制を築いている。	避難訓練は消防署の協力もあり定期的に実施している。運営推進会議において地域の協力が必要であることを訴えて訓練に参加してもらった。近隣住民の協力体制も構築し、職員･利用者共に意識も向上しているが備蓄の確認が出来なかった。	災害非常時の水や食料の備蓄については適切量の確保が望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉遣い、親しみを持った声掛けを行っている。	利用者とは家庭的な心情で対応しているが、個人としての尊厳やプライバシーの確保には配慮している。無理強いはせず、本人が自己決定できる対応や働きかけをして職員同士確認し合い支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立を援助し、職員が気持ちを察して本人の思いを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはある程度決まっているが、その時のペースに合わせ柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の利用時は本人の希望を聞いている。入浴後に乳液などを塗る方もいる。服も好きなものを着れるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に準備を行い、季節にあった旬のものを食べる。好き嫌いの把握にも努めている。	毎日の買い物から、食事作り、後片づけまで本人ができることに参加している。冷凍食品や出来合いの物を使わずにホームで取れた野菜や旬の食材を用い、和気合い合いと食事を楽しみ満足している利用者の姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成している。食事量、水分量を記録して一人ひとりに合った量で支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時就寝前に口腔ケアを行い、必要な方は昼食後おやつ後にも行っている。希望の方は協力歯科医療機関の往診を受けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのリズムを把握してオムツ外しを目指している。	自尊心に配慮し、排泄パターンや習慣を把握してさりげなく誘導している。日中と夜間で下着を使い分け、トイレを使用して快適に過ごし自信が持てる排泄の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳ヨーグルト食物繊維の多い食材を多く摂り、散歩体操をできる限り行うことで自然排便を		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り希望に合わせて入浴している。現在は夜間就寝前に入浴を希望される方はいない。	午後の時間帯で、利用者の習慣や希望に添って入浴介助を行っている。順番についても希望を大切にしている。言葉掛けや誘導等の工夫で入浴拒否はなくなり、週2回以上入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースで日中に休まれる方もおり、西日が当たりはじめるとソファでうたた寝をされる方もいる。消灯時間も決められてはいない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などは看護師、職員で情報を共有している。全職員で配薬を行い、誤薬飲み忘れがないように管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事は男性女性問わずにできる方が職員と行っている。その他工作、日曜大工仕事などやりたいことをみつけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望される方は家族にお願いしたり、職員が付き添い対応している。イベント時にはご家族にも声を掛けて参加して頂いている。	毎日の散歩の他、季節ごとの花見・ドライブまた近くで外食や本人の希望する買い物など、地の利を活かした外出支援が行われている。自由に出掛けられない利用者にも、ベランダやベンチで外気に触れる機会や車での外出を支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の判断の上でご本人が所持している方もいる。 家族からお小遣いとして預かり職員が代わりに行っている。ほしいものがあればできる限り一緒に買物に行く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手の方に配慮して支援している。ご家族から電話がかかってきた時にご本人にも話をしていただく事が多い。定期的に手紙を書いている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく季節を感じる事ができるように換気を積極的に行っている。ベランダ玄関先のベンチでゆっくりされる方もいる。	余裕のある設計で建設され、明るい日差しの中で清潔で家庭的・開放感があり自然を大切にした環境が整っている。居間・食堂のテーブル・ソファー・テレビが配置された中、落ち着いてくつろいだ様子で会話を楽しむ利用者の姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビングで過ごされたり、居室で利用者同士話をされていたりする。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に馴染みの物を持ってきていただくようにお願いしている。家族の写真や仏像を置いている方が多い。	居室は整理整頓され清潔さが保たれている。家族の協力のもと、利用者の使い慣れた品々の中でその人らしい生活空間が作られている。家族の写真や仏壇・仏像の持ち込みもあり在宅生活の継続となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立と安全のバランスに配慮し見守っている。適度な声掛けで過度な支援にならないように気をつけている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200536		
法人名	株式会社　宇宙SORA		
事業所名	グループホーム　ファミリア西脇	ユニット名	2階
所在地	静岡県静岡市駿河区西脇521－1		
自己評価作成日	平成23年1月13日	評価結果市町村受理日	平成23年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2294200536&SCD=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社　福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4－1
訪問調査日	平成23年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は一人ひとりのできる事の把握に努め、利用者の自立した生活を目指しています。安全、安心に生活するために柔軟に対応し、尊厳に配慮した支援を行いつつ、ひとつ屋根の下で生活する家族として温もりのある雰囲気を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V．サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を玄関に掲示し、毎朝復唱し意識している。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、お祭り運動会などに参加している。自主防災組織にも加入し町内の防災訓練にも参加している。散歩していると声を掛けて下さる方が多い。毎月、ファミリア通信という新聞を作成し西脇町内の回覧板にいれて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の会合に参加しグループホームの説明を行ったり、介護の相談に来られた方と話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で防災訓練を行うことにより、職員家族地域自主防災組織の意識の向上を図る。取り組み状況を報告して意見を聞き職員にも伝えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加され、必要な時に相談しアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を宣言しており、現在拘束は行っていない。今後も拘束をしないケアを目指していく。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員全員で意識し発生しないように今後も意識を深めていきたい。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所全体としては特に行っていないが、利用者ご家族からの相談に応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には管理者がご家族に説明を行い、日頃より交流を持っているため随時対応している。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に意見を出して頂けるように信頼関係を築く努力をしている。意見があった場合は職員にも伝え改善を図っている。		
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議にて意見を聞いている。常に職員の言動には注意を払い必要時には個別の面談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇を利用できるように配慮し、やりがいを持って働く事が出来るように努めている。体調不良時家庭の事情がある時も無理をしないようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部の研修、講習へ参加するようにしている。日頃から一人ひとりに合った教育をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	静岡市内の他のグループホーム事業者と意見交換会を開催し、色々な情報を運営に役立てている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずはグループホームに慣れて落ち着いて生活できるように、本人家族と話し合いを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	希望を聞きつつもグループホームでできる事や様々な出来事(リスク)を説明し気軽に話し合えるような関係を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在は他のサービスの利用はないが場合によっては介護支援専門員と相談し対応していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行い、できることはしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の家族に対する思いを伝え、家族の協力があって支える事ができていると伝えている。電話やお便りだけになっているご家族も面会に来やすいように話をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	車での外出時は馴染みの場所に寄ったり、面会者の訪問外出も円滑に行えるようにしている。話の中で出てきた名前は家族に確認している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが自然とよい関係になれるように環境づくりをして、職員が間に入り関係性を保っている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後1，2ヵ月後に電話をして話をしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で言動表情をみて、思いを把握できるように努力している。家族からも生活の意向など話を聞いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報として聞き取りを行っている。入居後も本人との会話の中で出てきた名前や場所を家族に確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送りにて情報を共有して把握している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人に生活の希望を聞き、家族にも面会時や電話連絡時に聞き、毎月の会議で検討をして変化に応じて必要のある場合は見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録への記入、連絡ノートの活用、毎日の申し送り、日々の勤務中に情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に外出の希望がある場合もできるだけ対応している。家族の状況により通院の付き添いも行っている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩買物でホームの外に出る機会をつくっている。地域の民生委員や地域住民の訪問もある。町内で催し物がある時は誘って頂けるため参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続して主治医としている。その他、提携医があり、希望される方は月二回の往診を受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回非常勤の看護師が勤務して密に連携をとり健康管理を行っている。体調不良時には電話連絡し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前には情報を提供し退院前には状態の把握をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の契約時に重度化した場合の対応の指針の説明を行い、ご家族主治医と相談しながら最善の選択ができるように対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを使用して応急手当や急変時の対応を教育し看護師からの指導も行っている。提携医は24時間体制のコール対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回防災訓練を行い、運営推進会議で実際に訓練を行うことにより職員家族地域自主防災組織の防災意識、協力体制を築いている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉遣い、親しみを持った声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立を援助し、職員が気持ちを察して本人の思いを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはある程度決まっているが、その時のペースに合わせ柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の利用時は本人の希望を聞いている。入浴後に乳液などを塗る方もいる。服も好きなものを着れるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に準備を行い、季節にあった旬のものを食べる。好き嫌いの把握にも努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成している。食事量、水分量を記録して一人ひとりに合った量で支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時就寝前に口腔ケアを行い、必要な方は昼食後おやつ後にも行っている。希望の方は協力歯科医療機関の往診を受けている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのリズムを把握してオムツ外しを目指している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳ヨーグルト食物繊維の多い食材を多く摂り、散歩体操をできる限り行うことで自然排便を		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り希望に合わせて入浴している。現在は夜間就寝前に入浴を希望される方はいない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースで日中に休まれる方もおり、西日が当たりはじめるとソファでうたた寝をされる方もいる。消灯時間も決められてはいない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などは看護師、職員で情報を共有している。全職員で配薬を行い、誤薬飲み忘れがないように管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事は男性女性問わずにできる方が職員と行っている。その他工作、日曜大工仕事などやりたいことをみつけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望される方は家族にお願いしたり、職員が付き添い対応している。イベント時にはご家族にも声を掛けて参加して頂いている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の判断の上でご本人が所持している方もいる。 家族からお小遣いとして預かり職員が代わりに行っている。ほしいものがあればできる限り一緒に買物に行く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手の方に配慮して支援している。ご家族から電話がかかってきた時にご本人にも話をしていただく事が多い。定期的に手紙を書いている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく季節を感じる事ができるように換気を積極的に行っている。ベランダ玄関先のベンチでゆっくりされる方もいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビングで過ごされたり、居室で利用者同士話をされていたりする。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に馴染みの物を持ってきていただくようにお願いしている。家族の写真や仏像を置いている方が多い。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立と安全のバランスに配慮し見守っている。適度な声掛けで過度な支援にならないように気をつけている。		